



News Letter

国際農業機械化研究会

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-12-3 新農林社内 電話 03-3291-5718・3674

INTERNATIONAL FARM MECHANIZATION RESEARCH SERVICE

c/o SHINNORIN-SHA, 1-12-3 KANDA NISHIKI-CHO, CHIYODA-KU, TOKYO, ZIP101-0054 JAPAN., TEL. 03-3291-5718・3674

News Letter 通巻 471 号

2014. 3. 7

発行責任者
岸田 義典

目次

2014

Vol. 2

- 「FIERAGRICOLA」
(第 111 回国際農業テクノロジー展)..... 2
国際農業機械化研究会 岸田義典 氏
- 国別輸出入 (2014 年 1 月)..... 7
- WORLD NEWS..... 12
- EVENTS CALENDER..... 13

「FIERAGRICOLA」 (第 111 回国際農業テクノロジー展)

国際農業機械化研究会理事
岸田義典 氏

国際農業機械化研究会は、(株)新農林社と共催で、第 471 回海外農業機械事情報告会を平成 26 年 2 月 28 日(金)に開催した。講師は、当研究会理事の岸田義典氏。岸田氏は、約 2014 年 2 月 6 日～9 日にイタリアのペローナで開催された「FIERAGRICOLA」(第 111 回国際農業テクノロジー展)を視察。それに併せ、作業機メーカーとバイオガス発電システムメーカーを訪問。それらを「ペローナ農業博覧会」と題して報告した。

要旨は以下の通りである。

2014 年 2 月 6 日(木)～9 日(日)の 4 日間、イタリアのペローナで「FIERAGRICOLA」(第 111 回国際農業テクノロジー展)が開催された。新農林社では、第 66 回目の海外視察団を日本の農業機械メーカー等 11 名で編成し、視察してきた。また、イタリアの作業機メーカー「MASCHIO GASPARDO 社」と、バイオガス発電システムとサイレージワゴンメーカー「SEKO 社」の工場と発電システムを見学。これらを併せ報告する。

「FIERAGRICOLA」

「FIERAGRICOLA」(第 111 回国際農業テクノロジー展: Veronafierte 主催)が 2014 年 2 月 6 日～9 日に開催された。当展示会は、農業関連の技術・牧畜・サービスの国際見本市。ペローナ博として 100 年以上の歴史があり、隔年で開催されている。今年の来場者は 14 万人を超え、ここ 10 年で最高記録を更新した。このうちの 14%が海外からの来場者で、103 ヶ国に及んだ。主要国は、オーストリア、スイス、ドイツ、ルーマニア、ロシア、フィンランド、フランス、日本のほかに、バルカン諸国や北アフリカからの来場もあった。

出展社数は 1,100 社。会場は、ホール 1 から 11 までを使用(ホール 8 と 10 はなし)。「ホール 1」は森林・グリーン関係、「ホール 2」は農業に関するサービス、種・肥料、コンサルティング等、「ホール 3」は再生可能エネルギー。農業機械は「ホール 4～7」。4, 5 がぶどう園や果樹園の作業機関係、トラクターや他の作業機は 6, 7。「ホール 9」では

動物のオークションが開かれた。「ホール 11」は、品種改良や畜産関係。屋外エリアでは、大型機械やバイオマス関連のチップパー等が展示されていた。また、ステージと観客席が設けられ、各メーカーの新製品を見学する場もあった。

ニューホーランド社の営業部長 Marco Mazzaferri 氏は、「大型農業機械やブドウ畑や果樹専用の農業機械の前はいつも大混雑で、関心の高さをうかがわせた」と語った。ほか、再生可能エネルギー等も注目を集めたひとつだ。

個人的な感想でいうと、「FIERAGRICOLA」は、「アグリテクニカ」や「SIMA」の出展社数(2013 アグリテクニカ: 2,900 社)と比べると小さめの展示会である。ヨーロッパが統合されてきて、各メーカーが出展する展示会を絞り込んでいることも理由のひとつ。出展社には輸出拡大が重要なので、海外からの来場者数を考えると、どうしてもアグリテクニカや SIMA に流れてしまう。今展示会は、イタリアの国内メーカー、電子化等についてきていないような小規模なメーカーが多い感があった。プレスリリースやメーカーのパンフレットもイタリア語のみで、国際展から国内向けの展示会になってきている感がある。

同展示会開催中に、農業工学会のオスカー「第 2 回ベストセラー賞」の授賞式が行われた。同賞は、『Macchine Trattori Magazine』との協賛により、2013 年に売上の高かったベスト 10(すべてトラクター)に授与された。詳細は右表の通り。

今年の 11 月には、部品業者が多く出展してくる